

# 特集

## 学校運動部活動と連携するクラブ



### 大田原ジョイフルスポーツクラブ

＜栃木県大田原市＞



中学校運動部活動をめぐっては、少子化による生徒の減少、それに伴う教員数の減少、専門的指導力を持つ教員の不足等により、生徒のニーズに応じた部活動自体が成り立たなくなる現状があります。

このような中、平成30年3月にスポーツ庁において「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が策定され、ガイドラインの中で総合型クラブと中学校運動部活動の連携が期待されています。

そこで今回は、学校運動部活動と連携するクラブの取り組みを紹介します。



#### ここがポイント!

1. 熱意のある先生の活動の場を奪わず、求めがあった場合に指導者を派遣
2. 競技経験のない顧問の部活では、あくまでも先生のサポートが主目的
3. 「学校支援地域コーディネーター」が学校側と緊密な連携とコミュニケーション

## 1 クラブ概要

活動地区である大田原東地区は大田原城の城下町を中心とした地域であり、古くから中心的な役割を担ってきた商工農三拍子そろった恵まれた地域です。また、小学校1校・中学校1校と少なく、地域と学校が連携しやすい地区でもあります。一方でスポーツや文化活動に目を向けてみると、多様化する住民のニーズに応えるための施設が少なく、小中の2カ所の施設および地区公民館を各自治公民館やPTA単位で利用しているのが現状でした。また、地区全体での様々なコミュニケーション不足も懸念され、このままでは「体を動かす」「コミュニケーションの輪を広げる」機会や場が少なくなり、住む人の顔が見える地域社会でなくなる心配もありました。

そのような状況の中、平成24年度に「大田原東地区生涯学習推進協議会」が中心となって「学校支援本部事業」が立ち上がり、それを契機に地域・学校・保護者の距離が一気に縮まり、活発な議論や活動が展開されるようになりました。その活動をとおして「学校内でのスポーツ」や「コミュニティとしてのスポーツ」等の様々な問題点が浮上し、それを解決するために、地区担当のスポーツ推進委員が中心となって平成26年2月に総合型地域スポーツクラブ「大田原ジョイフルスポーツクラブ」を設立しました。

## ● クラブの理念

「子どもからお年寄りまで参加できるコミュニティの場として、そして、誰でも・いつでも・いつまでも活動できるスポーツや文化活動の場を提供することを目的とする。また、各世代に応じた適切な一貫指導を行える場としての役割も担い、世代・自治公民館・PTA等の枠を超えたコミュニティづくりや個人の健康維持、体力・技術の向上等に貢献し、最終的にスポーツ・文化活動環境の一元化と共に『笑顔あふれるわがまちづくり』を目指す」

このクラブ理念を基礎に、地域住民が主体となって活動しています。また、コミュニティの可能性を追求するという理念に基づいて告知や宣伝は行わず、口コミのみで活動を展開しているのが特徴で、現在では地区外や他市町の会員も多く存在し、年々会員数を伸ばしています。さらに、主体性(イニシアチブ)を保つ観点から、教室やイベント等はすべて地域住民の要望に応じて開催しています。

設立から5年目の平成30年度は会員数が211名で、教室を「チャレンジ」と「テクニカル」併せて12教室、「ひろば」を2つ開催し、延べ3701名が参加してくれました。「チャレンジ」は初心者を取り組みやすい環境づくりやプログラムの提供を目的とし、「テクニカル」は経験者がより深い技術力や戦術等を学びやすいプログラムの提供を目的としています。また、「ひろば」は特定のプログラムを提供せずに参加者が主体的に活動できる場の提供を目的としています。

令和元年度現在は、ソフトテニス(チャレンジとテクニカル)教室、バレーボール教室、ミニバスケットボール(チャレンジとテクニカル)教室、バスケットボール教室、卓球ひろば(ここまでが学校に部活動がある種目)を開催。これ以外にもテニス(チャレンジとテクニカル)教室、バドミントン教室、ソフトバレーボール教室、ヨガ教室、エアロビクス教室、あそびひろば、軽音楽ひろばを要望により開催しています。

## 2

### 学校の求めに応じて学校支援事業を展開 小学校の要望にも対応

学校教育と生涯教育との一貫性、そして学校と地域の教育理念の共有が根幹にある学校支援事業は現在、「大田原東地区生涯学習推進協議会」の中で「学校支援部」として展開しています。「大田原東地区生涯学習推進協議会」と密接な関係にある当クラブは「学校支援部」の中に理事6名を派遣し、「学校支援地域コーディネーター」としてクラブマネージャーを含む4名が学校側と緊密な連携をとっています。その中で学校の求めに応じて支援のあり方をその都度構築しています。学校支援事業の対象は小・中学校なので、中学校だけでなく小学校運動部(スポ少)からも求めがあれば応じています。

特に中学校部活動は、先生と生徒のコミュニティーの場であると同時に、学校教育の一環であることが重要であるとの考えから、そして、熱意のある先生の活動の場を奪ってはいけないとの立場から、求めがあった場合に派遣することになっています。

過去には、「第二部活動」「吹奏楽部・サッカー部への綱引き指導」「バレーボール部指導支援」等の活動を中学校で展開してきました。また、「様々な理由により部活動に参加できなくなった生徒」や「不登校ぎみになった生徒」の相談も受け付け、その生徒の教室への受け入れもしています。そして現在では、バスケットボール部の指導支援を週1回程度実施しています。

## 3

### 過去には「所属外の部活動体験の推進」など ユニークな取り組みも

#### ● 第二部活動

最初に中学校から「所属している部活動以外の種目を生徒に体験させたい」との学校の求めを「学校支援地域コーディネーター」が聞き入れて、計画がスタートしました。

その後コーディネーターと学校が協議を重ねて、3年生の受験を考慮して5月～10月までの活動とすること、「文化部所属の生徒は運動部」「運動部の生徒は文化部活動」に参加すること、実施日は職員会議等で部活動のない月曜日を隔週で当てることが決まりました。

運動種目はサッカー、ソフトテニス、野球、卓球等既存の部活動種目にバドミントンを加えて行い、それぞれにスタッフを派遣しました。中学校部活動はあくまでも学校教育の一部であり、学校が主体であるべきという立場から、当クラブは「指導補助(支援)」としてスタッフを派遣しています。どんなに丸投げされても、指導補助の形は崩しません。この方法は、「指導者の暴走」や「指導の一貫性」、「顧問の先生が軽んじられる」のを防ぐ狙いもあります。逆に熱意のある先生が時間に余裕があるときに当教室の指導に来てくれた際は、主体はクラブですので、「指導補助」でお願いしています。

その後3年間活動し、生徒や保護者から喜ばれていましたが、授業時数増加に伴う時間的な理由等(校長先生が代わると事業の継続が困難になる側面もあります)により、残念なことに現在は行っていません。

### ● 「バレーボール部」「バスケットボール部」等の指導補助活動

特に経験の無い先生が顧問に就く場合に、学校からの求めがあります。この場合、顧問の先生から直接コーディネーターに接触があり、その後、顧問の先生とコーディネーターが直接話し合い、現状を共有し、支援の在り方(指導方法、指導プログラムの提供、期間もしくは期日、人数等)などの調整を重ねて実施します。ここで重要視するのが、あくまでも先生のサポートが目的であることです。先生と連携せずに派遣指導者が独り善がりの指導をすれば、生徒たちの混乱を招くだけなので、人選には特に注意して派遣しています。

### ● 小学校(スポ少)への指導者派遣活動

ある部活動で顧問の先生と保護者の間でトラブルが発生し、間に入った教頭先生がほとんど困って、地元の「スポーツ推進委員」に相談が持ち込まれました。顧問の先生と保護者双方に種目経験がないのが主な理由でしたので、クラブから指導者を派遣することを決定しました。特に平日の活動に支障があるとのことでしたので、人選したのち学校と保護者の了解のもと、2名の指導者を派遣しました。それが慣例化して、現在もそのまま派遣活動を継続しています。

以上の実践例をあげてみましたが、これ以外にも小学校体育授業や小学校クラブ活動事業にも指導者を派遣しています。体育授業は担任の先生からの求めに応じて適宜派遣。クラブ活動ではニュースポーツクラブを委託され、種目の選定からプログラムの提供・実施までを通年行っています。特に気をつけているのは、「手段や目標が目的化しない」ということです。分かりやすく説明しますと、手段や目標はあくまで目的達成のための流動的な方策であって、そこに向かって努力し、検証することは必要ですが、結果にこだわりすぎないことが大切です。

反対に、私たちが常にこだわらなければならないのが、「目的実現のために一歩進んでいるか」という一点です。こうした視点に立った上で、当クラブの理念や生涯教育理念、学校教育理念の実現を目的として、学校の求めに応じていくことが大切と認識しております。

## 4 コーディネーターの存在が学校側に安心感与える

「学校支援地域コーディネーター」が常に学校に出向きコミュニケーションをとっていることで、「気軽に安心して相談できる」と学校側からも評価をいただいています。派遣する人材も、理念の共有ができる人が原則ですし、初めての方を派遣する場合は顔の知っているコーディネーターが初回に同行することで、先生や生徒からも信頼を得られています。

### ● 保護者が地域に参画しやすい環境を醸成

一方で学校支援を機に地域でも様々なコミュニケーションがうまくとれるようになり、保護者が地域に参画しやすくなった事例が報告されています。結果、当クラブにも様々な要望が寄せられるようになり、嬉しい悲鳴を上げているところです。

## 5 50歳代の会員に指導者への道 教室等で次期指導者を育成

学校支援の一番の課題は、人材の確保です。理念を共有できる人材であることはもちろんですが、およそ午後4時から6時という部活動の活動時間も大きく影響しています。時間に余裕がある指導者となると、なかなか見つからずに苦勞している現状があります。当クラブでは、この問題を打開するために、教室等において次の指導者を育成し、良きリーダーシップを発揮できる人材の確保を目指しています。まだ、設立して6年目を迎えたばかりなので、驚く成果は発揮できていませんが、時間をかけてでもしっかりと取り組むべき課題と認識しています。特に50歳代の会員には、間もなく迎えるであろう定年後や、子育て期間終了後での新たな生きがいくりの一環として、積極的に働きかけています。

- 始動した「学校運営委員会」にクラブ理事が参画  
→ 学校側の異動で生じる課題解消へ

また、もう一つの課題として先生の異動の問題があります。特に校長先生が代わった時が一番の課題で、それまで有効に機能していた活動が終了の憂き目に遭うことがあります。この問題を打開するには、コーディネーターのコミュニケーション能力に頼るところが大きかったのですが、うまくいかない事例も何度かありました。ところが幸いにも、平成30年度より大田原市で小中一貫教育がスタートし、それに併せて地域が学校の運営に携われる「学校運営委員会」がスタートしました。今年度から本格的に活動するにあたり、当クラブの理事も「学校支援コーディネーター」として学校運営委員会に参画し、4月の委員会において部活動支援の恒久的な在り方について議論し、計画を立てていくことで一致することができました。

- 中学生にも校外ボランティア活動の場を提供へ

さらに、中学校教育では「学校に来て生徒を教えてもらうより、生徒が地域に出て社会活動の中で自己研鑽してほしい」という熱い思いもあります。この課題に対して、当クラブでは高校生以上に限定していたボランティアスタッフの枠を拡充し、中学生もボランティアスタッフとして活動する校外活動の場を提供することにし、併せて活動証明書が発行できるように、現在、理事会において熟議をしています。

(大田原ジョイフルスポーツクラブ 理事長兼クラブマネジャー 菊池貴章)



バレーボール教室



バスケットボール教室

## クラブ プロフィール

**設立年月日** 平成26年2月28日

**所在地** 栃木県大田原市大田原東地区

**運営** 会員数211名(平成31年3月末現在)、予算規模115万円(令和元年度)

**有給職員** 0名

**特徴** 大田原市大田原東地区(対象エリア人口:約10000人)を中心に、スポーツや文化活動を通して、子どもからお年寄りまで同じ環境下で参加できるコミュニティの場を提供する活動をしています。現在、5歳の幼児から小中学生、高校生、大学生、74歳の社会人まで、各年代が途切れない形で会員が分布しているのが特徴です。

**連絡先** 〒324-0055 栃木県大田原市新富町1-2-22

電話番号 0287-22-2012 FAX 0287-24-2251

E-Mail [ootawara\\_print@yahoo.co.jp](mailto:ootawara_print@yahoo.co.jp)